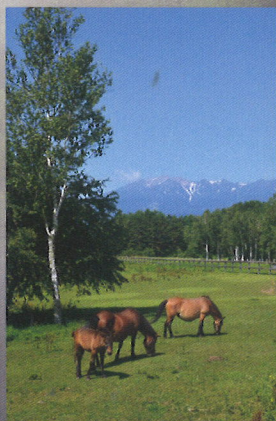


JAPAN HERITAGE

日本遺産

木曾路はすべて山の中  
山を守り山に生きる

# 日本遺産 木曾物語り







**日本遺産とは？**  
日本遺産（Japan Heritage）は、地域に根差した歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。地域の魅力ある有形・無形のさまざまな文化財群を整備・活用し、総合的なストーリーとして国内外に発信・活性化を図ることを目的としています。

# 日本遺産 木曾物語り

木曾路はすべて山の中  
山を守り山に生きろく

長野県西部の木曾地域は、西に霊峰・御嶽山、東に秀峰連なる中央アルプスを仰ぎ、中央に深い谷を刻む木曾川と木曾路・中山道が続く。幾重にも重なる山々は豊かな森と水を育み、奥深い歴史と固有の文化・伝統を継承する古き良き日本の原風景を彷彿させます。

## 木曾地域と木年貢

木曾谷の約9割が森林で占められ、限られた耕作地と農作物では領民を養うことができず、豊臣秀吉の時代から米年貢の代わりに木年貢が課せられ、領民には米が配給されるなど、豊かな森林資源が木曾の暮らしを支えていました。

## 厳しい森林保護政策

木目が緻密な木曾檜は、古来から神社仏閣建築に重用され、伊勢神宮の「式年遷宮」の神木として使われてきました。この木曾檜に危機が訪れたのは、江戸城・駿府城・名古屋城など、城郭



赤沢自然休養林

や城下町造管用材として膨大に伐り出された江戸時代初期のことでした。木曾谷を所轄する尾張藩は、木曾檜をはじめ、「木曾五木」の伐採を禁止するなど山林の保護政策に乗り出しました。檜一本首ひとつ、枝二本腕ひとつとまで言われた規制は、木材で生計を立てていた領民にとって厳しい経済統制となりました。

## 地場産業の奨励

山林の伐採を制限された木曾領民には、風土に根ざした地場産品の開発・生産が奨励され、藩から支給される「御免白木」を加工した曲物・漆器・お六櫛などの木製品、養蚕や御嶽山修験者ゆかりの薬草製薬・百草など、地場の特徴を生かした産業振興を図りました。農民には、小型で性格が温和な働き者の木曾馬の飼育を奨励し、馬市での売買、農耕・運送にと江戸時代後期には数千頭が飼育されていました。

## 街道と宿場の賑わい

江戸時代の五街道のひとつである中山道の整備と共に、木曾十二宿が急速に発展します。木曾谷の山河情景は多くの文人墨客を魅了し、詩歌や版画となって世に知られることになり、宿場は旅人や地場産品の生産・販売・流通の拠点として賑わい、木曾谷の経済を牽引することになりました。奈良井宿は、人馬を常備して参勤交代の輸送・通信業務を負い、旅人のための旅籠や茶屋が設けられ

奈良井千軒とも謳われる木曾街道随一の宿場として栄えました。尾張藩から支給された御免白木は、檜物細工・漆物などに加工され、漆工町木曾平沢と共に木工品や漆工品の名産地として発展することになりました。妻籠城南麓の妻籠宿は、木曾十二宿中最も小さな宿場でしたが、旅籠や地場産業従事者も多く、木地師によるろくろ細工の木工品や、御免白木の許可を得た農家の女性たちによる「蘭檜笠」が産業化され各地に広まりました。

## 御嶽信仰と木曾路

江戸時代中期、御嶽登拝が盛んになり全国から多くの信者が訪れるようになります。登山道脇の数万基にのぼる「霊神碑」がその信仰の深さを物語り、往来する御嶽参りの人々によって木曾路の交流・交易はさらに促進され、修験者が携帯したとされる「そば」は百草などと共に御嶽山麓の特産として全国に知られることになりました。

## 蘇る檜 継承される心

近世に入ると、御嶽山麓に木曾檜を満載した「森林鉄道」が走り、木曾檜は再び木曾の代名詞として蘇り、地場産業は全国に名高い木曾馬や伝統工芸品として結実しました。木曾路最南端、馬籠宿出身の文豪、島崎藤村は、小説「夜明け前」の冒頭で「木曾路はすべて山の中」と著しましたが、木曾谷の人びと、山河、

街道は、「山を守り 山に生きる」独自の暮らしと文化を育み、「森林の保護」「街道・宿場の保存」「伝統工芸の伝承」の心は今なお息つき、そして未来へと受け継がれてゆきます。



奈良井宿



そば

漆器



木曾馬

こうしたさまざまな地場産品は、木曾路を江戸へ、京へと全国に広まり木曾の暮らしの支えとなっていました。



お六櫛



妻籠宿



御嶽山

\*1 式年遷宮：内宮・外宮の正殿・社殿を建て替え、神座を遷すこと  
\*2 木曾五木：檜（ひのき）・榎（さわら）・ねずこ・翌檜（あすなる）・高野槲（こうやまき）のこと  
\*3 御免白木：使用が許可された材木を割って半製品にした材料のこと  
\*4 霊神碑：死後、魂が御嶽山に還ることを願って建てられた石碑のこと



# 日本遺産をめぐる木曽路の旅

(※コース行程は一例です ※所要時間は車で移動した場合のおよその目安です)

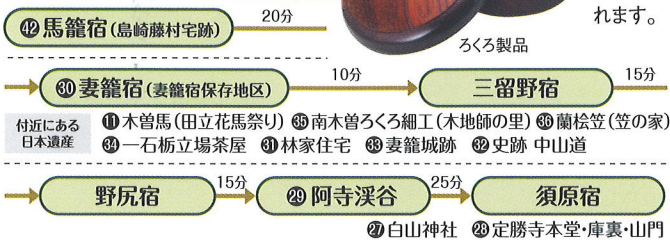
## 宿場と中山道を辿る歴史コース(これより北木曽路)



江戸と京を69次(宿)で結ぶ中山道。木曽街道には11宿の宿場が栄え、石畳の道や風情ある町並みが、まるで江戸時代にタイムスリップしたような気分になります。



ろくろ製品



## 檜の森と神の滝をめぐる

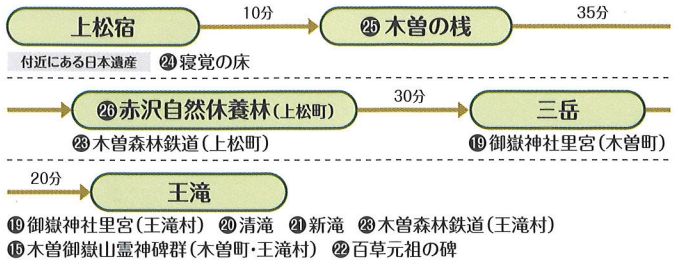


赤沢自然休養林

深い山合いの森に荘厳な水音を響かせる「清滝」と「新滝」。森林浴発祥の「赤沢自然休養林」では、樹齢300年の美しい天然檜の森や森林鉄道を堪能できます。



ポールドウィン号



## 関所の宿場町から木曽馬の里へ

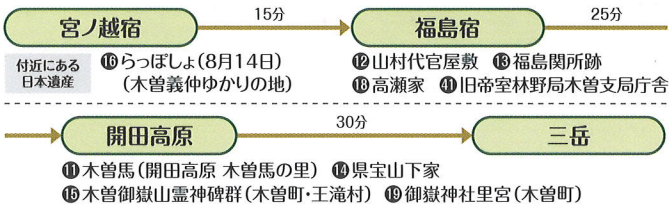
天下の四大関所のひとつ福島関所、なまこ壁の土蔵や崖家造りの福島宿。霊峰・御嶽山麓に広がる開田高原では、かわいい木曽馬が心なやませてもらえます。



木曽馬



福島関所



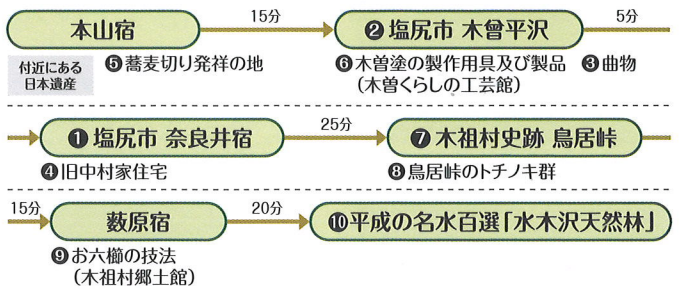
## 宿場と伝統工芸を訪ねて(これより南木曽路)

木曽街道「奈良井宿」と「藪原宿」を結ぶ鳥居峠越えの中山道。風情ある宿場や伝統の漆器・木工芸品が旅の楽しみを広げます。



曲物

鳥居峠



## 中山道木曽11宿 道草の旅・歩き旅



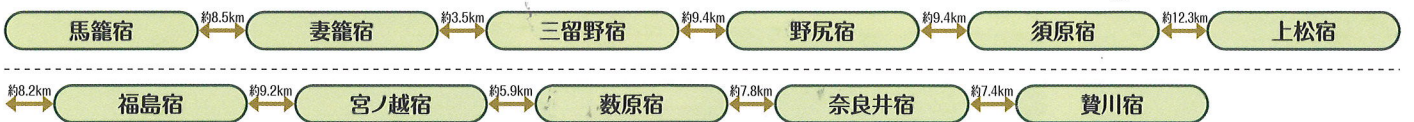
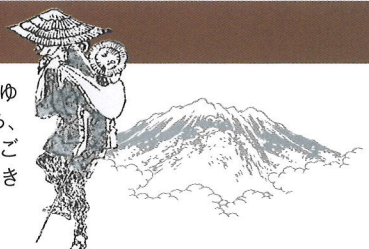
林家住宅

興禅寺

奈良井宿

木曽11宿を結ぶ歴史の道を、ゆっくり歩いてみませんか。北から、南から、連泊しての踏破、季節ごとに歩き継ぐなど人気の街道歩きです。

<木曽11宿全行程約82km>



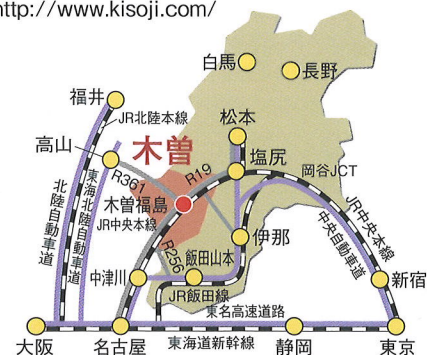
※「信州木曽路 中山道を歩く」ウォーキングガイドマップパンフレットがあります。木曽観光連盟までお問い合わせください。

## 木曽地域文化遺産活性化協議会

お問い合わせ 木曽観光連盟 長野県木曽郡木曾町日義4898-37木曾文化公園 TEL.0264-23-1122 <http://www.kisoji.com/>

交通のご案内	電車(JR)ご利用の場合	● 新宿から木曽福島
	お車ご利用の場合	● 名古屋から木曽福島 ● 新大阪から木曽福島 ● 東京(高井戸IC)から木曽福島 ● 名古屋から木曽福島
	高速バスご利用の場合	● 高山から木曽福島 ● 新宿から木曽福島

中央本線→塩尻→中央本線	約3時間3分(最速)
新幹線(のぞみ)→名古屋→中央本線	約3時間20分
中央本線	約1時間23分(最速)
新幹線(のぞみ)→名古屋→中央本線	約2時間20分
中央自動車道→塩尻I.C→R19号	約3時間45分
中央自動車道→伊那I.C→R361→R19	約3時間30分
中央自動車道→中津川I.C→R19号	約2時間10分
中央自動車道→伊那I.C→R361→R19	約2時間20分
R361号	約1時間40分
中央自動車道→塩尻I.C→R19号	約4時間10分





# 日本遺産 木曾紀行

曲がりくねった石畳の峠を越え、深い谷を辿り、山あいの11の宿場を結ぶ中山道・木曾路。佇めば、江戸へ 京へと往来する旅人たちの足音が聞こえてきそう。肩を寄せ合うように軒を連ねる格子戸の家並みが、遙か江戸の時代を色濃く残す。

さあ、のんびりと木曾路めぐり歩きの旅に出かけませんか。



**7 木祖村史跡**  
鳥居峠(木祖村)D-3  
御嶽通所があり芭蕉の「ひばりより上にあやすう峠かな」の句碑などが立ち並ぶ。



**8 鳥居峠のトチノキ群(木祖村)D-3**  
トチノキの巨木が林立し、「木曾の栃うき世の人の土産かな」の芭蕉句碑がある。



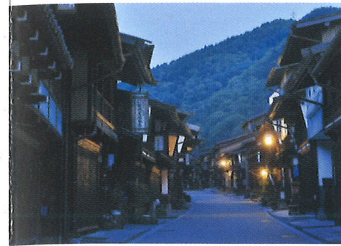
**9 お六櫛の技法(木祖村)D-3**  
頭痛もちのお六が、ミネバリを櫛にして髪を梳いたところ全快したとのいい伝えのある櫛。



**10 水木沢天然林**  
「水木沢郷土の森」(木祖村)D-3  
樹齢200年を超えるのヒノキやサクラ



**39 木曾材木工芸品(木曾地域)**  
ヒノキ、サワラ、コヤマキなど、それぞれの特性と美しさを活かした木曾の特産。



**1 塩尻市奈良井(塩尻市)E-3**  
鳥居峠北麓の街道随一の宿場町。町のつくりや家並みは当時の面影を色濃く残す。



**2 塩尻市木曾平沢(塩尻市)E-3**  
国の伝統的工芸品の木曾漆器の町。店舗・塗蔵などの建物が軒を連ねる。



**3 曲物(塩尻市)E-3**  
木曾檜を木理に沿ってへぎ、曲げ加工を行いそば道具、茶道具等を作る。至松本



**4 旧中村家 住宅(塩尻市)D-3**  
奈良井宿のお六櫛などの櫛問屋で、江戸期の典型的な町屋づくりを残す。



**5 そば切り発祥の里(塩尻市本山宿・大桑村)E-2**  
本山宿に碑、定勝寺に古文書があり、現在の蕎麦の形が木曾谷から始まったと考えられる。



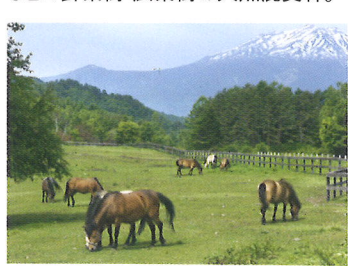
**6 木曾塗の製作用具及び製品(塩尻市)E-3**  
世代を超えて受け継がれ、磨きぬかれた伝統技術が見事な木曾漆器を創出する。(国の重要有形民俗文化財)



木曾駅



などの針葉樹・広葉樹の天然混交林。



**11 木曾馬**(木曾町・南木曾町)C-3  
道産子や御崎馬と並ぶ日本在来馬種で開田高原に「木曾馬の里」がある。



**12 山村代官屋敷**(木曾町)D-4  
江戸時代、木曾谷に地場産業を奨励した代官・山村家の屋敷。



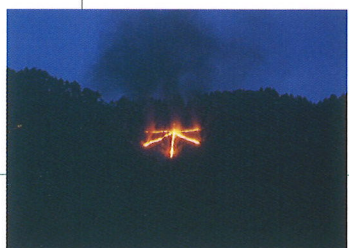
**13 福島関所**(木曾町)D-4  
天下の四大関所のひとつ。中山道の「出女」「入り鉄砲」を厳しく取り締まっ



**14 県宝山下家**(木曾町)C-3  
庄屋を勤め、馬医で大馬主の山下家は、馬を農家に貸し、農家は仔馬を育て収入を得た。



**15 木曾御嶽山霊神碑群**(木曾町・王滝村)B4-C4  
御嶽講の人々により死後魂が御嶽に還るよう願って建てられた石碑群。



**16 らっぽしよ**(木曾町)D-4  
子どもたちが松明を手に木曾義仲のお墓へお参りする。



**17 木曾踊りと木曾節**(木曾町)D-4  
木曾踊りは義仲の供養、木曾節は「おんたけ節」筏師の歌をを取り入れた民謡。



**18 高瀬家**(木曾町)D-4  
文豪島崎藤村の姉である園の嫁ぎ先で、高瀬家は、代々関所番を務めた。



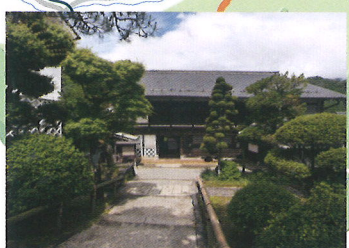
**19 御嶽神社里宮**(王滝村・木曾町)C-4  
御嶽山頂の御嶽山座王大権現の里社として全国にその信仰が広がった。



**20 清滝**(王滝村)C-4  
御嶽登拝の前に、心身を清める水行を行なう御嶽山を源にする信仰の滝。



**21 新滝**(王滝村)C-4  
御嶽山修験者の修行の場所。滝裏に岩祠があり裏見の滝とも呼ばれる。



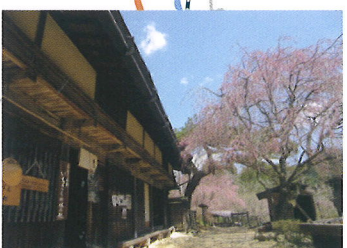
**31 林家住宅**(南木曾町)C-6  
妻籠宿の脇本陣・問屋を勤めた屋敷。皇女和宮御嫁縁ゆかりの長持が保存される。



**32 史跡 中山道**(南木曾町)C-6  
徳川家康による五街道の一つ。石畳など当時の中山道の旧態が残されている。



**33 妻籠城跡**(南木曾町)C-6  
戦国時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。



**34 一石柝立場茶屋**(南木曾町)C-7  
中山道沿いにある一石柝は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。



**22 百草元祖の碑**(王滝村)C-4  
百草は御嶽山開祖の覚明と普賢により伝授され、「御神薬」として信者に広まった。



**37 手打ちそば**(木曾地域)  
御嶽山修験者に所縁のある「そば」は開田高原の特産となった。



**38 すんぎ漬**(南木曾町を除くエリア)  
塩を使わず「かぶ菜」を乳酸菌発酵させた漬物。木曾谷の冬の風物詩になっている。



**40 木曾の朴葉巻**  
木曾の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。



**35 南木曾ろくろ細工**(南木曾町)D-7  
厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削り出す伝統技術。



**36 蘭捨笠**(南木曾町)C-6  
寛文2年に飛騨から来た人によって伝えられた檜の「ひで」で編まれた手作りの笠。



**41 旧帝室林野局木曾支局庁舎**(木曾町)D-4  
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曾山の威光と歴史を今に伝える。

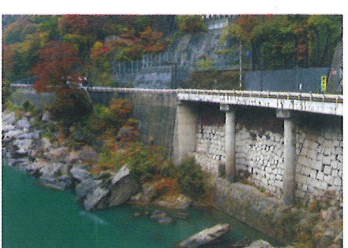


**42 島崎藤村宅(馬籠宿本陣)跡**(岐阜県中津川市)C-7  
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

木曾の森林鉄道  
小川、王滝森林鉄道を中心に木曾谷一帯に建設された。今も赤沢自然休養林の中を走り抜けている。



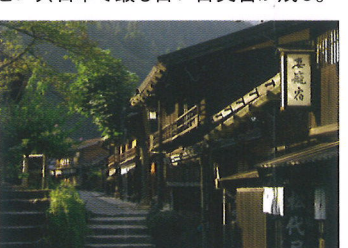
**24 寢覚の床**(上松町)D-5  
木曾八景のひとつ。歌人・俳人が数々の歌を詠み、浦島太郎伝説で知られる。



**25 木曾の棧**(上松町)D-4  
木曾八景のひとつ。芭蕉の「かけはしや命をからむ 薦かつら」の句碑がある。



**28 定勝寺本堂・庫裏・山門**(大桑村)D-5  
金永という人物が、そば切りを振舞ったという、日本で最も古い古文書が残る。



**30 妻籠宿保存地区**(南木曾町)C-6  
江戸から42番目の宿場として慶長6年に制定。江戸期の趣を色濃く残す宿場町。



**27 白山神社**(大桑村)C-5  
元弘4年(1334年)に建立され、現存する社殿建築としては信濃最古のもの。



**29 阿寺溪谷**(大桑村)C-5  
檜・樺など木曾五木に囲まれ、白い岩とエメラルドグリーンの水が美しい溪谷。



**26 赤沢自然休養林**(上松町)C-5  
樹齢300年を超える木曾天然檜の森。林鉄が走る日本の森林浴発祥の地。